
序 文

大学院システム情報科学府・研究院は平成8年4月に大学院システム情報科学研究科として設置され、その後平成12年4月、九州大学における学府・研究院制度の導入に伴い、大学院の教育組織である大学院システム情報科学府、教員の所属する研究組織である大学院システム情報科学研究院という2組織に再編されました。平成21年4月に改組を行い、学府は3専攻、研究院は4部門体制となりました。平成21年4月の改組から3年、いわゆる学年進行が終わる時期を目途に自己点検・評価活動を取りまとめ、平成24年11月に自己点検・報告書を公表することが出来ました。この報告書に基づき外部評価委員の方に評価をお願いし、本年1月に外部評価委員会を開催いたしました。本外部評価報告書は外部評価の結果を取りまとめたものです。

外部評価委員には、研究院を構成する各部門から推薦された方から、大学所属の3名の方、産および官所属の3名の方にお引き受け頂きました。

外部評価委員の方には自己点検・報告書をお読み頂いた上で、予め評価シートを作成して頂き、外部評価委員会で討議を行って頂きました。その上で、最終的な評価結果を各委員からご報告いただきました。それぞれ自己点検・評価の中ではなかなか気がつかない点などを的確にご指摘頂き、本学府・研究院の今後の運営や発展にとって極めて重要な示唆をいただいたものと感謝しております。特に、外部評価委員長をおつとめ頂いた関西大学教授（元東北大学大学院情報科学研究科長）西関孝夫先生には、「褒めて育てることが重要である」との視点から外部評価委員会をまとめて頂き、多くの建設的な意見を外部評価委員の方から頂くことができました。

ご指摘頂いた主な点を列挙すると、以下のようなものがあります。

- ・国内外の他大学との競争という視点での自己評価を行うためにも、他大学との比較を積極的に行うべきである。
- ・博士後期課程学生への支援をもっと強化する必要がある。
- ・アジア諸国との連携という九大の特長を着実に推し進めていく必要がある。また、教育の国際化への取り組みを更にすすめるべきである。
- ・教員への負担が増える中での教員構成の改善を進めるべきである。また、教員の流動性を高めることも重要である。
- ・体制・制度等の整備がどのようなアウトプットもたらしたかを評価し、PDCAサイクルに乗せることが重要であろう。

外部評価委員の構成は先にも述べたように、3名が大学所属、3名が大学外所属でしたので、様々な角度からコメントを頂きました。我々があまり普段意識することのなかったような点や説明が不十分であった点について指摘して頂き、ハッとさせられた点も多くありました。特に、自己点検・評価報告書をどのような観点で整理するかという点については、外部評価委員の指摘にもあるように、国

内外の他大学との競争という意識をもっと強く持つべきであったと反省しているところであります。この点は、今後の自己点検・評価のプロセスにしっかりと反映していく必要があると感じています。

外部評価のプロセスは極めて貴重な体験ではありましたが、委員会の席には本学府・研究院からは限られた教員しか出席しませんでした。外部評価委員の生の声を全ての教員に届けることができたらしと感じるばかりです。今回の評価結果を今後活かすためには、この結果を本学府・研究院の構成員で共有する必要があります。システムの改善はあくまでも、PDCAのサイクルを永続的に行うことでのみ達成できます。そのためにも、この外部評価報告書を手に取り、外部評価委員の様々なコメントを真摯に受け止め、皆で考え、そして実行すべき事を着実に実行していくこと必要であると考えています。

最後に、年末年始の極めて忙しい時期に、自己点検・報告書を丁寧にお読み頂くと共に、外部評価委員会で建設的な意見を出して頂いた、外部評価委員の皆様へ深く感謝申し上げます。

システム情報科学府長
システム情報科学研究院長

谷 口 倫一郎